

12月の園だより

学校法人 鶴来学園
鶴来第二幼稚園

早いもので今年も残すところあと僅かとなりました。それにしても今年は災害が多い年でした。昨年末から2月にかけて全国で異常な低温となり各地で観測史上最低を記録、福井県では平年の6倍もの積雪があり国道8号線で車1500台が立ち往生、石川県でも五六豪雪（昭和56年）以来37年振りの記録的な大雪となりました。その最中の1月23日には群馬県の白根山が噴火し死傷者も出ました。4月には島根県西部地震、6月には大阪市北部地震、7月には11府県を襲った西日本豪雨、そして厳冬だった冬とは真逆に夏にはこれまでに経験したことのないような酷暑となり、埼玉県熊谷市では41.1℃と日本の最高気温を更新しました。9月4日には25年ぶりに非常に強い勢力で上陸した台風21号が西日本を縦断し、関西空港では滑走路が水没、強風に煽られ漂流した大型の燃料輸送船が空港の連絡橋に衝突する様子が報道され、6日に起こった北海道胆振東部地震では、この台風の大雨による影響で明治以降で日本最大規模の土砂崩れが発生、全道で停電するなど各地に大きな爪痕を残しました。全国的に災害が頻発する中、幼稚園では自由登園や保育時間の短縮など臨時的対応をしたり、一部の大型遊具が風で園庭の真ん中まで飛ばされていたということはありませんでしたが、特に大きな事故もなくこうして無事に園児やご家族のみなさんと共に師走を迎えられることに感謝したいと思います。

さて今年、ほぼ10年に一度行われる学習指導要領の改訂の年でした。教科書の検定などがある小学校以降の学校では移行期間があり小学校では2020年4月～、中学校は2021年4月～全面実施となりますが、幼稚園は今年4月から即全面実施ですので、今年がその指針に沿った教育活動を再構築する年となりました。それは単に学習指導要領（幼稚園教育要領）の指針に沿うということだけではなく「変化の激しい時代に予測される未来において、人間が必要とする能力とは何なのか？」という教育の大前提を問い直すことであり、今やそれは世界共通の教育課題ともなっています。それに伴って学校や教師（特に小学校以降の）に求められるものも大きく変わりました。幼稚園ではもともと教科学習という考えはなく具体的、直観的な生活上の事実や事柄を教材として子どもの自発的、作業的な活動や遊びを重視してきましたが、その時に大切なのは「配慮に満ちた環境」です。教師は教えるのではなく、一人ひとりの子どもが本来持っている個性を伸ばす環境や、その子の持つ力を発揮する場を設定して可能性を導き出すのに手を貸し、その取り組みでの子どもたちの成長の姿と、何をどう学んだかということを保護者の方と共有することがこれまで以上に求められるようになりました。

11月に金沢市の兼六小学校で「小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会」の全国大会がありました。英語や道徳の教科化、アクティブラーニングへの取り組みなど、小学校での授業の様子もずいぶんと様変わりし、2020年4月～の新要領全面実施に向けてずいぶんと頑張っているなあ～というのが率直な感想です。私は主に幼小連携（幼稚園で学んだことが小学校以降の学びへといかにスムーズに接続させていくか？）の視点で、一年生の生活科におけるスタートカリキュラムの公開授業とその授業討議に参加してきましたが、幼稚園の入園から高校卒業までの15年間の学びの連続性と小学校との接続を意識した3年間の幼児教育を行うと同時に、幼児教育において培われてきた資質・能力を活かして、生活科を中心とした各科・関連的指導を1年生の最初のみならず、低学年全体で実施していくことが出来るような連携や取り組みを地域の小学校と幼稚園（こども園や保育園も一緒に）で行っていくことが、鶴来地区全体の教育力を高めるために必要であると思いました。クリスマス表現会が終わるといよいよ次年度のカリキュラム（教育課程）を検討する時期となります。未来に向かって今を生きる子どもたちにとって今、何が最善か？という視点で教員が全員参加し、熟議を重ねて見直しを図り、少しでもより良い幼児教育を提供できるよう来年も取り組んでまいります。

本年も幼稚園の教育活動にご理解とご協力を頂きありがとうございました。新しい年が園児の皆さんとご家族、そして大切な方にとって素晴らしい一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

幼稚園統括園長
中嶋 謙仁

12月の指導計画

幼稚園では各クラスの担任が下記の指導案に基づき、子どもたちの学びと育ちをサポートしています。各ご家庭においても下記（今月のねらい）をご理解いただき「今日は幼稚園でどんなことをしたの？」など、お子さまとコミュニケーションしたり、同様の視点でお子さまと接していただくことで、お子さまの成長を感じて頂ければと思います。

年長 劇やダンスを発表する中で、一人一人の力を発揮し、見てもらう人に楽しんでもらうことで達成感や満足感を味わう。

友達と共通の目的に向かって思いや考えを伝え合いながら見通しを持って遊びを進めて行く楽しさを味わう。

年中 自分の思いを表して友達と一緒に伸び伸びと表現する楽しさを味わう。

友だち同士、表現遊びをする中でイメージを共有していく楽しさを感じていく。

年少 絵本の世界を楽しみ、役になりきって表現する面白さを味わう。

自分の思いを伝えながら、友だちとの関わりを楽しむ。

満三歳児 保育者に見守られ、自分で身の回りのことを行なう。

身近な物の名前に興味をもつ

子どもの姿（11月）

（年長）

・表現会で子どもたちが大好きな虫が登場する「ふわふわふとん」の話を劇にすることになりました。柳の下にあるやなぎハウスに住む虫たちが知恵を出し合い冬ごもりをする話なのですが…。今年、たまたま園庭に柳の木が植えられ、劇を始めた頃に子どもたちと「これが柳の木なんやよー」と見に行きました。「この下はやなぎハウスかなー？」とのぞいて見ていました。しばらくして、ふと柳の木の下を見てみると、いつの間か穴が出来ていてその中にふわふわふとんに見立てた、お花や葉っぱがキレイにいれられていました♡そして寒くさで動きが鈍くなったカマキリを「この子も冬ごもりだね」と作ったやなぎハウスに招待していましたよ。

（年中）

・表現会前にクッキングできなこ作りをしました。大豆をプレートで炒り豆にしている時、だんだんと幼稚園中に香ばしい匂いがたちこめると「いいにおいがする〜！」と子どもたち。劇のセリフの「くんくんくん。それにしても いいにおい！！」と同じことに気づくと嬉しそうでした。

・年中劇のストーリーを子ども達と話し合っていく中で「おなべの中に何入れたい？」と聞くと『豆！豆！』『さつまいも！』『ネギ！』『人参！』『大根！』次々に自分たちで育てた畑の野菜を答えていました。ちゃんと子どもたちの経験が生かされていて感心しました。

（年少）

・吉岡園地に園外保育で行ったバスの中の会話で……

「からすのパンやさん見えるかなあ〜？あつ！あそこにあるかなあ？あんなお山の高いとこまでどうやって行こうかな〜」と窓の景色を見ながら先生が何気なくつぶやくと…

「パンやさんまで、あたし風船でとんでく〜」

「わたしは魔法のほうきにのっていくよ〜！」

「え〜じゃあぼくヘリコプターでいこっかな」

…と、物語の世界に想像や妄想を膨らませていたカワイイ年少さんでした。

（満三歳児）

・表現会の練習でやっぱりここはこんな風にしたいな…やっぱりここはあんな風にしようかな…と時々振りが変わることがありましたが、子どもたちはその都度ちゃんと覚えてくれてびっくり！子ども達の順応性に驚かされる連続でした。そして当日も誰一人泣く子もいなくて堂々と踊っている姿にも驚きと感動でした。